学習院大学
西１号館

キャンパスには中央教育研究棟や南７号館（理学部研究棟）など、最新設備を備えた教育研究施設はもちろん、南１号館や北別館（史料館）、東別館のように、歴史と伝統を感じさせる、風格ある建造物も建ち並んでいます。

なかでも「西１号館」は、英国の名門イートン校をモデルとして1930（昭和５）年に建てられた、学習院大学のシンボルとも言える建造物です。国登録有形文化財にも登録されていますが、そのクラシックな外観とは異なり、内部は1999（平成11）年に全面リニューアル。31室の語学・演習用教室のすべてにマルチメディア機能が導入され、１人１台ずつパソコンを利用しての授業にも対応するなど、現役校舎として今なお活躍しています。

青山学院大学
マクレイ記念館

2024年４月に開館した「マクレイ記念館」。地下１階・１階には明るく開放的な雰囲気にあふれた情報学習関連施設を有する情報メディアセンターを配置。２～６階の図書館は収蔵可能冊数約150万冊、座席数約1500席で、「学生本位の図書館」という視点に基づき、閲覧スペースのほか、ラーニングコモンズ、グループ学習室、プレゼンテーションルーム、研究個室などを配置。２階のアカデミックライティングセンターでは、レポート・論文執筆の個別支援を受けることができ、グループでの学びから個人の研究活動までサポートします。利用者の学習・研究・教育を総合的に支援する学術情報の拠点として、キャンパスの新しいシンボルになっています。

慶應義塾大学
記念館

日吉キャンパスに建つ記念館は、２年半にわたる建て替え工事を終え、2020年３月に新しくなったばかりの建物です。通常は体育の授業や課外活動で使用する運動施設として利用されています。また、約１万人を収容できるその規模を活かし、入学式や卒業式といった式典等のイベントにも使われ、普段の日から特別な日まで、多くの塾生（在学生）が集う場所です。四季の変化に映える白を基調とした外観は、記念館の両隣に建つ校舎と調和するように設計されており、四季折々違う表情を見せる銀杏並木と白のコントラストが美しく、日吉キャンパスの新たなシンボルとなっています。

Campus Tour

《誌上キャンパスツアー》

「知」の空間を探訪する

古代ギリシアの哲学者プラトンは
紀元前４世紀、アテネ近郊に位置する
アカデモスの森に「アカデメイア」を創設。
今日、“アカデミー”などの語に
その名を残すこの学園に同時代の叡智が集い、
幾何学や天文学などの学問が花開いていきました。
その人類の「知」の資産は今日、
大学という空間に集い、
さらなる発展を目指し教育・研究活動が日々営まれています。
「学問」の未来に向かって開かれた、
豊かな扉の“向こう側”を訪ねてみませんか。

早稲田大学
国際文学館（村上春樹ライブラリー）

2021年10月に開館。早大OBで作家の村上春樹氏の作品を所蔵し、幅広い関連書と合わせて館内で閲覧できます。村上氏本人から寄託・寄贈された資料は多彩で、初版本などの貴重なものに加えて、海外で翻訳された50言語にもおよぶ書籍、さらには村上氏が趣味で集めたレコードなども展示されています。ラウンジに置かれたグランドピアノは、かつて村上氏が経営していたジャズ喫茶で使われた本物です。館内はほかにも、村上作品の年譜、オーディオルーム、村上氏の仕事場を再現した「村上さんの書斎」、カフェなどの施設が充実。国内外の村上ファンが集い、村上ワールドを体感できる文化交流の場となっています。建物は、村上氏の友人で建築家の隈研吾氏による設計で、既存の校舎をリノベーションしました。

立教大学
本館（モリス館）

1874年、創立者ウィリアムズ主教により築地に開設された立教学校（1907年立教大学に改称）は、1918年に現在の地・池袋に移転しました。その際に、米国聖公会宣教師アーサー・ラザフォード・モリス氏の寄付によって建てられたのが、「モリス館」の名で親しまれている立教大学のシンボル・本館です。

震災と戦災をくぐり抜けた、つたの絡まるチューダー様式の美しいレンガ建築は、東京都選定歴史的建造物にも選ばれました。中央時計台の時計は今でも3～4日に一度、手で巻かれています。本館前には高さ約25メートルのヒマラヤ杉が2本あり、クリスマスの時期にはイルミネーションで彩られます。

法政大学
HOSEIミュージアム

中心的機能を有する市ケ谷キャンパスの「ミュージアム・コア」、3キャンパスに開設され、教育・研究の個性と結びついた展示を行う「ミュージアム・サテライト」、学内各所で学生・卒業生・市民との接点を作る「ミュージアム・ポイント」、貴重な学術資料などをネット上で公開する「デジタルアーカイブ」の4つの機能で構成。法政大学の教育・研究の個性を紹介するテーマ展示も。

また、大学史ゾーンでは、法政大学の成り立ちを4つの時期（「若者たちによる建学」「進取の気象」「自由と進歩を追い求めて」「たゆまぬ変革の明日へ」）に分け、デジタルサイネージと実物展示により、法政大学の文化や個性の由来を表現しています。

中央大学
茗荷谷キャンパス（学生食堂）

長期事業計画「Chuo Vision 2025」のもと、先導的な大学改革を進める中央大学は2023年4月、都心に3つの新キャンパス（茗荷谷、駿河台、小石川）を開校しました。このうち、法学部と大学院法学研究科の移転で、法曹教育のより一層の充実が期待されているのが茗荷谷キャンパスです。地上8階地下2階建ての校舎は、中央大学の前身である英吉利法律学校の赤レンガ造り校舎をモチーフとし、低層階には旧駿河台校舎と同じ尖頭アーチを取り入れています。教室は遠隔授業やハイブリッド型授業に対応し、図書館や食堂は創立者が学んだイギリスのミドルテンプルを想起させるつくりとなっています。司法試験や国家公務員試験などの難関試験突破を目指す学生のための「研究室フロア」も設置しています。

同志社大学
クラーク記念館

1893（明治26）年に竣工（国指定重要文化財）。アメリカのB.W.クラーク夫妻がアメリカン・ボード（海外宣教団体）に申し出た寄付金をもとに建てられました。設計はR.ゼール。尖塔が印象的なこのレンガ建築は、同志社のシンボル的存在です。

老朽化のため、5年間にもおよぶ大規模な修復工事を行い、2008年2月、創建当時の姿に復原されました。なかでも2階の講堂は、「クラーク・チャペル」と命名され、礼拝をはじめ講演会や結婚式など、同志社のキリスト教主義の発信地として、また人々のメモリアルな場として、広く利用されています。

明治大学
明治大学博物館

駿河台キャンパス・アカデミーコモンの地階を占める明治大学博物館。90年以上の歴史を持ち、日本にある私立大学の博物館では最も長い歴史を持つ博物館の一つです。収蔵品の充実と調査・研究により、学部・大学院の特色ある教育研究に資するとともに、社会に開かれた「知」の窓口として進化を続けています。

常設展示室は、漆器、染織品、陶磁器などの手工業製品を紹介する「商品部門」、刑罰関係の古文書や国内外の拷問・処刑具などを一堂に展示する「刑事部門」、旧石器時代から古墳時代に至る、明治大学の考古学研究の粋を集めた「考古部門」から構成。さらに大学史展示室も有するほか、各種企画展・特別展も開催しています。

「知」の空間を
探訪する

Campus
Tour

関西大学

千里山キャンパス

文理10学部に2万人を超える学生が集う、全国屈指の規模を誇る千里山キャンパスは、1922（大正11）年の千里山学舎建設以来、「学の実化」の理念に基づく学術振興の拠点としての整備を続け、現在では各学部の学舎棟をはじめ多彩な施設を擁する総面積35万㎡におよぶ広大な教育・研究空間へと発展しました。都心からの交通の便に恵まれながら、大阪府吹田市の千里山の丘陵地に広がる豊かな緑にあふれた立地は、創造性と自由な精神を育む大学として絶好の教育環境を備えています。学生が研究、課外活動に取り組み、活気溢れるキャンパスから、数々の教育・研究成果を社会に発信する大学として、産学連携に強い関西大学をめざします。

関西学院大学

時計台

関西学院大学の西宮上ケ原キャンパスは、日本で活躍した建築家W.M.ヴォーリズの設計によるもの。

赤い瓦屋根とクリーム色の外壁を特徴とする「スパニッシュ・ミッション・スタイル」で統一されたキャンパスの中心に位置するのが、関学のシンボル「時計台」です。今日もなおその優美なたたずまいで、学生・教職員の知的探究の時を刻んでいます。

関西学院大学は、西宮上ケ原キャンパス（神・文・社会・法・経済・商・人間福祉・国際学部）、西宮聖和キャンパス（教育学部）、神戸三田キャンパス（理・工・生命環境・建築・総合政策学部）の3キャンパス14学部から成る総合大学です。